

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

Pick up research

研究進捗報告／技術ガバナンス研究ユニットより

科学技術と社会の共進化に向けて

技術ガバナンス研究ユニットでは、技術の変化に対応した制度革新のあり方や、技術に関わる多様な便益とリスクを踏まえて行う俯瞰的な社会意思決定支援の枠組みについて、公共政策大学院「科学技術と公共政策研究ユニット」における研究活動と連携しつつ、大学内、社会の様々な関係者との対話を踏まえて発信しています。これまでの主たる活動は以下の2つです。

1. エネルギー・環境政策に関する提言 (2009年6月)

社会が選択するエネルギー・環境政策 技術政策と社会システム構築の連携に向けて

1. 柔軟性の強化
 - ①市場支援的手法の活用－認識情報資源の活用、組織間連携の促進
 - ②制度的手法の活用
 - －導入補助金から租税特別措置、炭素税や固定買取制度、排出権取引制度等へ
 - ③研究開発支援の充実
2. 包括性の確保
 - ①需要側からのエネルギー利用分析の充実化
 - －住宅、土地、交通分野での包括的社会ニーズ把握の重要性
 - ②単体技術の支援から「社会システム」の変化への支援へ
3. 頑強性の強化：エネルギー・インフラへの投資の強化
4. 多様な観点からの実効的議論が可能な横断的な場の確保

2. 原子力法制の課題抽出 (2009年7月)

東京大学原子力法制研究会社会と法制度設計分科会中間報告

- (1) 運転段階におけるプロセス明確化－運転再開プロセス等
- (2) 立地プロセスの明確化－地域の社会的意思決定等
- (3) 自治体と事業者間の安全協定の課題－自治体側の責務、自治体における人材継承の問題
- (4) 規格基準の課題－国・事業者・メーカーの責任明確化の必要、規格戦略構築の必要
- (5) バックフィットの仕組みの明確化
- (6) 安全規制体制の選択肢－独立性確保、社会的信頼確保、専門的能力確保の必要

そのほか、電子政府政策における業務改革、推進体制の課題、テクノロジーアセスメント(技術の社会的影響評価) 制度化方策や持続可能な社会への移行管理のあり方について、検討しています。今後は、海洋政策、宇宙政策の検討もしていく予定です。

最近の活動および予定

- 持続可能な社会への移行に向けたトランジション・マネジメント
 - －ヨーロッパにおける経験と日本の課題(共催、2010年2月13日、山上会館)
- 科学技術政策プロセスのオープン化
 - －テクノロジーアセスメント(TA)の新たな潮流と我が国での制度化(共催、2010年3月9日、国際文化会館)
- 北極海のガバナンス
 - －多様なステークホルダーと課題設定の諸相(共催、2010年3月10日、国際文化会館)

政策関連用語集

政策ビジョン研究センターでは、各研究ユニットの最先端の研究内容をよりご理解いただけるよう、ホームページ上に政策関連用語集を作成しました。現在、知的財産権とイノベーション研究ユニット／医療におけるIT政策研究ユニット／安全保障研究ユニット／医療機器の開発に関する政策研究ユニット／航空政策研究ユニット／市民後見研究ユニット／再生医療政策研究ユニット／技術ガバナンス研究ユニット／生命・医療倫理政策研究ユニットの、9つの当センター所属研究ユニットより、キーワードを掲載しております。詳細はHPをご覧ください。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/words.html>



モンパルナスタワーから見たPARIならぬPARISの夜景。Wikimedia Commonsより。

活動報告

James V. Wertsch 教授 表敬訪問

1月5日、James V. Wertsch 教授 (Director, McDonnell International Scholars Academy, Washington University in St. Louis) が政策ビジョン研究センターを表敬訪問された後、森田朗センター長を交えて松本洋一郎理事(副学長)と会談しました。マクドネル・アカデミーは、世界各国から優秀な奨学生を集めてグローバル・リーダーに育てるというプログラムのために設置されたワシントン大学総長直轄の機関で、日本では東京大学だけが本プログラムのパートナーシップ校に選ばれています。東京大学からは2010年1月までに3名の奨学生が選出されました。



information

クリニカルデータ国際シンポジウム

未来へ向けた電子化診療情報の利活用を考える

- 日時：3月5日(金) 13:00～18:30
 - 場所：鉄門記念講堂(収容人数：300名程度)
- 是非ご来場ください。開催報告は次号に掲載します。

堀場製作所最高顧問
 政策ビジョン研究センター顧問

堀場 雅夫氏からのメッセージ

情報技術が進歩したにもかかわらず、有用な情報や知識が分断、死蔵され、活用されていないのが大きな社会的ロスである。医療分野はその最たる例だ。診療情報を統合、分析して活用できるようになれば、効果的な治療法のスピーディな普及、副作用情報のいち早い分析、地方における専門医の教育的画期的な充実など夢のフロンティアが広がっている。ただ、一部グループは必ずしも賛成ではなく、壁にも直面するだろう。このようなフロンティアの開拓は、人類共通の課題であり、同じ意思を持つ国や研究機関と手をつなぎ、力を結集することで乗り越えて欲しい。今回始まる新しい試みに大いに期待したい。